



dinnteco 100plus

陸上および海上のあらゆる構造物に対応

発電所や危険物貯蔵施設などの火災や爆発の危険のある環境や、落雷の危険性が高い区域にある構造物、また冬季雷にも対応した最新モデルです。最大100mの広い保護範囲を実現し、NATO軍施設をはじめ世界各国で導入されています。(特許第6342869号)

寸法(最大幅/高さ) $\phi 244 \times 370\text{mm}$

本体重量 7.08 kg

本体材質 アルミニウム/PVC(POM)

準拠法および準拠規格

JIS-IEC対応表

JIS	制定	名称	対応IEC	条文抜き出し
JIS A 4201 1992	1992	建築物等の避雷設備(避雷針)	対応IECなし ※旧JISはIEC制定以前の日本独自の規格	
JIS A 4201 2003	2003	建築物等の雷保護	01024-1	IEC61024-1を翻訳し、技術的内容を変更して作成した日本工業規格である
JIS Z 9290 - 1	2014	雷保護-第1部: 一般原則	62305-1	IEC62305-1を基に技術的内容及び構成を変更することなく作成した日本工業規格である
JIS Z 9290 - 3	2014	雷保護-第3部: 建築物等への物的損傷及び人命の危険	62305-3	IEC62305-3を基に技術的内容を変更して作成した日本工業規格である
JIS Z 9290 - 4	2016	雷保護-第4部: 建築物等内の電気及び電子システム	62305-4	IEC62305-4を基に技術的内容及び構成を変更することなく作成した日本工業規格である

dinnteco-100plusはJIS規格に準拠しており、建築基準法上および消防法上、製品として問題なくご使用いただくことができます。



JIS-IEC対応

JISにおいては「JIS(※日本規格)がIEC(※国際規格)に基づく」と明記されています。
※具体的な対応表は左図「JIS-IEC対応表」をご参照ください。



ビューローベリタスによる認証

dinnteco-100plusのIEC規格への準拠は、第三者認証機関である「ビューローベリタス」により認証を受けております。

認定施工制度

認定施工業者による確実な施工



dinnteco-100plusの確実な動作のため、本製品の施工は「認定施工制度」とをとしています。
メーカー監修済の詳細な施工手順書・チェックリストを用意し、一定以上の施工品質を担保しています。

安心のメーカー認定施工品質



施工後に設置レポートを作成し、dinnteco japanからdinnteco インターナショナルへ提出します。これにより、万が一製品故障が発生した際には、製品保証をお受けいただくことができるようになります。(※次年度以降のメンテナンスレポートも同様)

年1回のメンテナンスで保証を1年延長



認定施工業者による年1回のメンテナンスをお受けいただくことで、製品保証(設置から1年間)を、さらに1年間延長。最長5年間まで保証をお受けいただくことができます。

日本正規ディストリビューター

dinnteco japan

http://www.dinnteco.jp

カスタマーサポート(技術的なお問い合わせ)

Email: info@dinnteco.jp ☎ 03-6869-6754

dinnteco



お問い合わせ・ご購入のお申込み



NATO軍施設・米国国際空港にも採用された
「落雷現象を発生させない」革新的な避雷針

世界37カ国で選ばれる雷被害のベストソリューション

dinnteco

増加の一途をたどるゲリラ豪雨などの異常気象。従来型の避雷針では避けられない雷サージのダメージから、建物・施設・設備を保護するための避雷針が「dinnteco-100plus(ディンテコ100プラス)」です。

従来の避雷針 = 雷を 落とす もの

避雷針に雷を誘い込んで落とし、人や建物に直撃しないようにします。



- ✓ 避雷針への落雷によって、巨大な電流が発生し、電子機器やネットワークに大きなダメージが及ぶ
- ✓ 地面を通じて周辺にいる人が感電したり機器が破壊することがある

dinnteco = 落雷を 起こさない もの

保護範囲内の電荷の中和を繰り返すことで、落雷現象の発生を抑制します。



- ✓ 落雷現象が発生しないため、電子機器やネットワークにダメージが一切ない
- ✓ 周囲への影響も発生しない

dinnteco は消イオン型避雷針を開発したINT.A.R社からライセンス供与を受け、世界37カ国に展開しています。

消イオン型避雷針の開発企業INT.A.R社から受け継いだ技術とノウハウ

欧州からアメリカ、アジアまで広がるディストリビューターネットワークを活かし、世界37カ国でdinnteco-100plusを販売

「落雷現象を発生させない」消イオン型避雷針の技術を世界で最初に開発したINT.A.R社は、2003年より避雷針の販売を開始しました。2013年、INT.A.R社は知的財産権、製造権、販売権を含む一切の権利をdinnteco社にライセンス供与することとなり、2013年10月7日付で契約が締結されました。

INT.A.R社から独占的なライセンス供与を受け、dinnteco社は販売体制を強化。現在、世界37カ国で販売され、アメリカの国際空港、NATO軍施設、パナマ運河等の巨大建造物をはじめ、通信系大手クライアントなど、多数の施設にdinnteco製品が採用されています。



※dinnteco-100plusは、日本以外の36カ国では「DDCE」の名称で2003年より販売されています。

dinnteco 100plus.®

落雷現象を「発生させない」避雷針

これまでの避雷針が雷を「捕まえて落とす」仕組みであったのに対して、このdinnteco-100plusは、落雷現象を「発生させない」性能を持った、まったく新しい避雷針です。これにより、従来型避雷針で大きな課題となっていた、直撃雷による「雷サージ（＝雷を避雷針に落とすことで生じる巨大な電流がもたらす、電気・電子的な被害）」を解決しました。今年年間1兆円以上と言われる雷被害に対する、最新かつベストなソリューションです。



2013年 NATOカタログに掲載

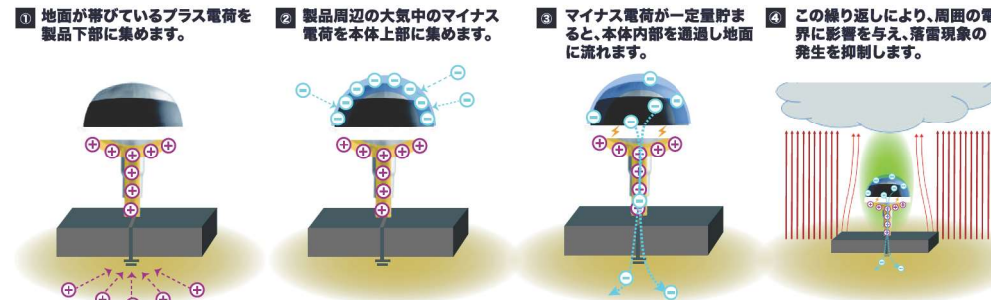
dinnteco-100plusは、極めて高い避雷能力により、世界各国に圧倒的な数の導入実績があります。2013年にはNATOカタログに登録され、NATO軍施設にも多数採用されています。また、国際空港や世界的に有名な文化財、パナマ運河等の巨大建造物の雷対策にもdinnteco-100plusが用いられています。

国内外で特許取得済

dinnteco-100plusは、日本国内特許（第6342869号）を取得しています。また、製造元のdinntecoインターナショナルは、同製品の特許を世界30カ国で取得しています。
※INTA.R社で取得したものを含む

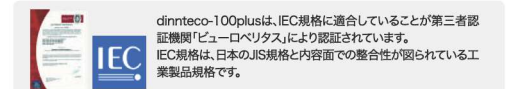
保護範囲内の電荷の中和を繰り返すことで、落雷現象の発生を抑制します

dinnteco-100plusは、保護範囲内において、接地面からプラス電荷を、製品周囲の大気中からマイナス電荷を収集し、中和し続けるはたらきをしています。このはたらきを繰り返すことで、接地面からのプラス電荷は上昇せず製品に集められるため、雷雲のマイナス電荷との結びつき（落雷現象）が抑えられます。



ビューローベリタス認証取得済 JIS規格・建築基準法に準拠

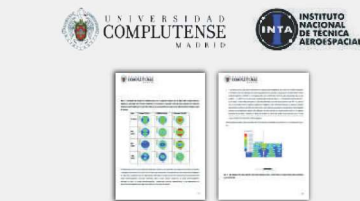
本製品は2008年、公的機関の定める規格に適合していることを試験・認証する機関「ビューローベリタス」の試験をクリアし、電気・電子技術分野の国際基準であるIEC規格（※1）、およびISOへの適合認証（※2）を受けています。
※1 ISO9001/UNE-EN（IEC 62305:2011 雷に対する保護）
※2 ISO9001:2008（品質マネジメントシステム）



各種認証取得済みで安心



コンプルテンセ大学とINTAによる共同研究



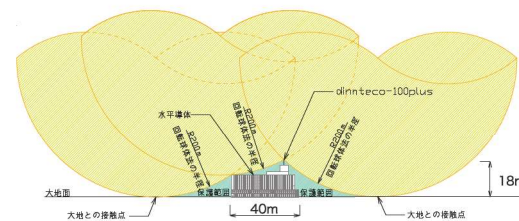
本製品のメカニズムについては、2018年、スペイン国立航空宇宙技術研究所（INTA）とマドリード・コンプルテンセ大学のエウゼビオ名誉教授による共同研究が行われ、翌年の2019年にはその研究成果が論文として発表されています。この研究により、電圧がかかってもdinnteco避雷針の周囲に落雷現象が発生しない根拠的な理由として、本体内部での「アーク放電（共振）」による電荷の中和現象を観測することができました。

本体内で起こるアーク放電により、本体上部に集まったマイナス電荷は流れ出すように地中に移動します。その繰り返しによって、周囲の電界に影響を与え、マイナス電荷とプラス電荷が結合しなくなり、電路形成に至らなくなると考えられています。

dinnteco-100plusの保護範囲について

参考イメージ：高さ18m、横幅40mの建物に設置するケース

※下図はイメージです。建物の形状や周辺の立地により、実際の保護範囲は異なる場合があります。



・・・回転球体法でいうR=200mの球のイメージ（架空の球体）
・・・dinnteco-100plusの保護範囲

R=200の回転球体法に基づく保護範囲

dinnteco-100plusの保護範囲は、保護対象物に設置された「dinnteco」と水平導体などの「受雷部」の2点、または「受雷部」と「大地」の2点が接するようにR=200mの球体を転がした時に、球体表面の内側（保護対象物側）にあたる部分となります。これは、JIS規格において保護範囲を算定する際に用いられる「回転球体法」という基本的な設計方法です。回転球体法に用いるR=200mという数値は実証実験の結果を元に定められており、dinnteco製品の効果を及ぼす範囲を算定する際に用いられています。なお、dinnteco-100plusの保護範囲は物件の大きさや構造により、それぞれ異なります。

※建築基準法（20m以上の高さの建物）や消防法に係る物件は、まずJIS規格で定められた保護範囲の算定および設計を行い、その上でdinntecoの機能効果が実際に得られると考えられる保護範囲もあわせて算定しご提示します。

実証実験① スペイン・マゼラ通信塔（実証実験期間：1年7ヶ月間）

雷多発エリアのマゼラ通信塔で落雷0を実現！



保護範囲内
落雷0

スペイン・ABERTIS TELECOM社所有のマゼラ通信塔に設置。従来は電気・電子部品の損傷を伴う落雷が多発していましたが、dinnteco-100plus設置後は、周辺3km圏内で374回の落雷が発生する中、保護範囲（半径100m）内への落雷は0件という結果となりました。

本体からの距離	落雷発生回数
0m（直撃雷）	0回
100m以内	0回
100m以上300m未満	11回
300m以上500m未満	8回
500m以上900m未満	50回

実証実験② スペイン・バスク地方ビスカヤ気象レーダー（実証実験期間：4年8カ月）

スペイン国家気象庁のレーダーを冬季雷から保護



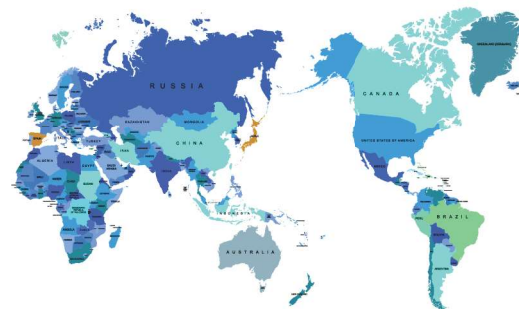
保護範囲内
落雷0

スペイン気象庁の気象レーダーに設置。バスク地方は雷の発生率が高い地域として知られています。dinnteco-100plus設置直前にはレーダーへの直撃雷があり、実証実験期間中も2km圏内で96回の落雷がありましたが、保護範囲内への落雷は、冬季雷を含め0件となりました。

本体からの距離	落雷発生回数
0m（直撃雷）	0回
100m以内	0回
100m以上300m未満	6回
300m以上500m未満	4回
500m以上900m未満	17回

全世界の施設・設備で8,000本超の導入実績

世界37カ国に広がるdinntecoディストリビューターネットワーク



スペイン／フランス／オランダ／デンマーク／イタリア／ドイツ／スロベニア／リトアニア
ロシア／イギリス／アンドラ／モロッコ／赤道ギニア／ギニア／オーストラリア／インドネシア
フィリピン／マレーシア／台湾／日本／アメリカ／メキシコ／コスタリカ／キューバ
コロンビア／パナマ／ベネズエラ／グアテマラ／ペルー／ボリビア／パラグアイ／ウルグアイ
アルゼンチン／ブラジル／チリ／エクアドル／ドミニカ

※ 導入実績は2022年現在 | 最新事例は資料請求もしくは dinnteco.japan ホームページをご覧ください。
※ 導入事例には、2003年以降発売の同コンセプトの旧型製品も含まれます。

